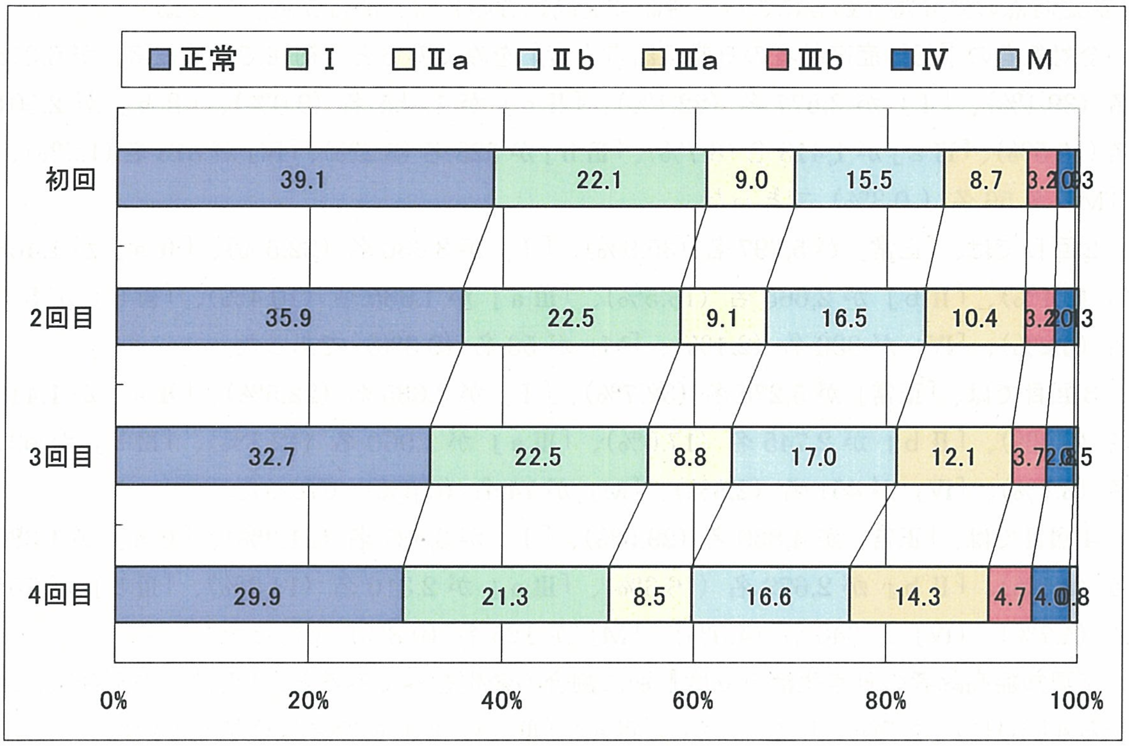

図 10 『認知症高齢者の日常生活自立度』（全体：N＝16,156）

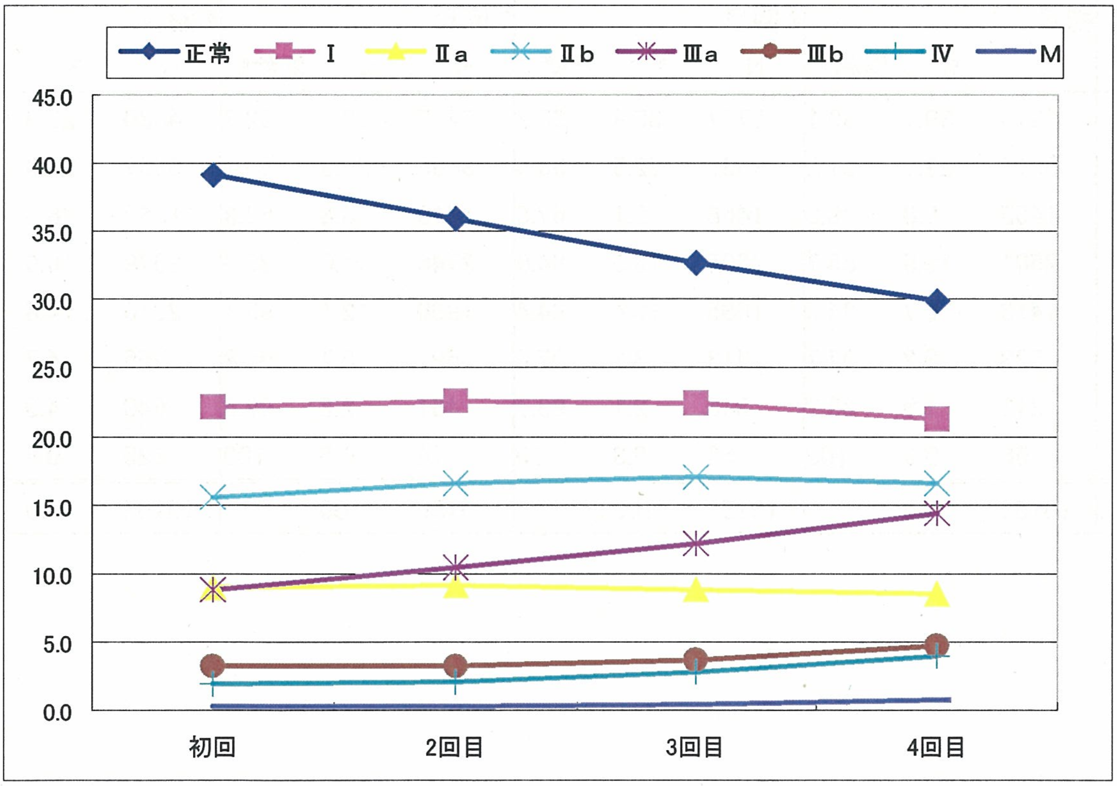

図 11 『認知症高齢者の日常生活自立度』別の変化（全体：N＝16,156）

5.認定時点の要介護高齢者における認知症の有症割合の要介護度別の変動

(1) 初回の認知症の有症割合

次に、要介護度別に認知症割合の経年的な変化についてみた。認知症を『認知症高齢者の日常生活自立度』がⅡ以上とし、その割合の変化についてみてみると、初回における要介護高齢者の認知症の有症割合は、38.8%であった。要介護度別にみると、「要介護 5」が認知症の割合が最も多く 219 名（65.4%）であった。次に「要介護 4」が 654 名（61.7%）、「要介護 3」が 1,183 名（57.9%）、「要介護 2」が 1,822 名（49.8%）、「要介護 1」が 1,857 名（32.2%）、「要支援」が 525 名（16.0%）、「非該当」が 1 名（4.3%）と続いた。要介護 3 以上になると 6 割が認知症となっていた。

表 27　初回の要介護度別認知症割合（全体：N＝16,156）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	22	95.7	1	4.3	23	100
要支援	2748	84.0	525	16.0	3273	100
要介護1	3909	67.8	1857	32.2	5766	100
要介護2	1834	50.2	1822	49.8	3656	100
要介護3	860	42.1	1183	57.9	2043	100
要介護4	406	38.3	654	61.7	1060	100
要介護5	116	34.6	219	65.4	335	100
合計	9895	61.2	6261	38.8	16156	100

(2) 2回目の認知症の有症割合の変動

2回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、41.6%で初回よりも増加していた。要介護度別にみると、「要介護 5」が認知症の割合が最も多く 206 名（61.5%）、「要介護 4」が 643 名（60.7%）、「要介護 3」が 1,171 名（57.3%）、「要介護 2」が 1,910 名（52.2%）、「要介護 1」が 2,099 名（36.4%）、「要支援」が 689 名（21.1%）、「非該当」が 5 名（21.7%）と続いた。

有症割合が最も低かったのは、要支援の 21.1%で、初回で最も低かった非該当は、21.7%と大きく増加していた。次いで、要介護 1 の 36.4%と続き、これも初回よりも高い割合であった。要介護 2 も初回の 49.8%から、52.2%と増加していた。

しかし、要介護 3 は、57.9%から 57.3%、要介護 4 は、61.7%から 60.7%、要介護 5 は 65.4%から 61.5%と要介護 3 以上になると、認知症の有症割合は低くなっていた。

表 28　2回目の要介護度別認知症割合（全体：N＝16,156）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	18	78.3	5	21.7	23	100
要支援	2584	78.9	689	21.1	3273	100
要介護1	3667	63.6	2099	36.4	5766	100
要介護2	1746	47.8	1910	52.2	3656	100
要介護3	872	42.7	1171	57.3	2043	100
要介護4	417	39.3	643	60.7	1060	100
要介護5	129	38.5	206	61.5	335	100
合計	9433	58.4	6723	41.6	16156	100

(3) 3回目の認知症の有症割合の変動

3回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、44.9%で初回よりも、2回目よりも増加していた。要介護度別にみると、「要介護5」が212名(63.3%)、「要介護4」が656名(61.9%)、「要介護3」が1,215名（59.5%)、「要介護2」が2,021名（55.3%)、「要介護1」が2,303名（39.9%)、「非該当」が8名（34.8%)、「要支援」が831名（25.4%）と続いた。

このうち、有症割合が最も低かったのは、要支援で25.4%であった。要支援も2回目の21.1%から増加し、非該当は、21.7%から34.8%とさらに増加の割合が大きかった。次いで、要介護1も36.4%から39.9%と増加し、これも初回よりも2回目よりも高い割合であった。要介護2も初回の49.8%から、52.2%、さらに55.3%と増加していた。要介護3は、2回目に57.9%から57.3%、要介護4は、61.7%から60.7%と、要介護5は65.4%から61.5%と減少していたが、3回目は、それぞれ59.5%、61.9%、63.3%と増加していた。しかし、要介護5だけは、初回の認知症の有症割合よりは、3回目のほうが低くなっていた。

表 29　３回目の要介護度別認知症割合（全体：N＝16,156）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	15	65.2	8	34.8	23	100
要支援	2442	74.6	831	25.4	3273	100
要介護1	3463	60.1	2303	39.9	5766	100
要介護2	1635	44.7	2021	55.3	3656	100
要介護3	828	40.5	1215	59.5	2043	100
要介護4	404	38.1	656	61.9	1060	100
要介護5	123	36.7	212	63.3	335	100
合計	8910	55.1	7246	44.9	16156	100

(4) ４回目の認知症割合の変動

４回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、48.8%で初回、２回目、３回目よりも高かった。要介護度別にみると、「要介護 4」が 702 名 (66.2 %)、「要介護 5」が 213 名 (63.6%)、「要介護 3」が 1,283 名（62.8 %)、「要介護 2」が 2,149 名（58.8 %)、「要介護 1」が 2,553 名（44.3 %)、「非該当」が 10 名（43.5 %)、「要支援」が 979 名（29.9 %）と続いた。

このうち、有症割合が最も低かったのは要支援で 29.9%であった。非該当は、43.5%と要支援よりも認知症割合は高かった。次いで、要介護 1 は 44.3%を示し、初回から、漸次、増加していた。要介護 2 も初回の 49.8%から、52.2%、55.3%、58.8%と増加していた。要介護 3 は、２回目に 57.9%から 57.3%減少したが、３回目は 59.5%、４回目は、62.8%と 6 割をこえ、増加していた。要介護 4 は、61.7%から 60.7%と減少したが、３回目は 61.9%、要介護 5 は 65.4%から 61.5%と減少していたが、3 回目は、それぞれ 59.5%、61.9%、63.3%と増加し、４回目は 66.2%と高くなっていた。要介護 5 も３回目より高く 63.6%となっていたが、要介護 5 だけは、初回の認知症の有症割合が他の認定時点より高い割合を示していた。

表 30　4 回目の要介護度別認知症割合（全体：N＝16,156）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	13	56.5	10	43.5	23	100
要支援	2294	70.1	979	29.9	3273	100
要介護1	3213	55.7	2553	44.3	5766	100
要介護2	1507	41.2	2149	58.8	3656	100
要介護3	760	37.2	1283	62.8	2043	100
要介護4	358	33.8	702	66.2	1060	100
要介護5	122	36.4	213	63.6	335	100
合計	8267	51.2	7889	48.8	16156	100

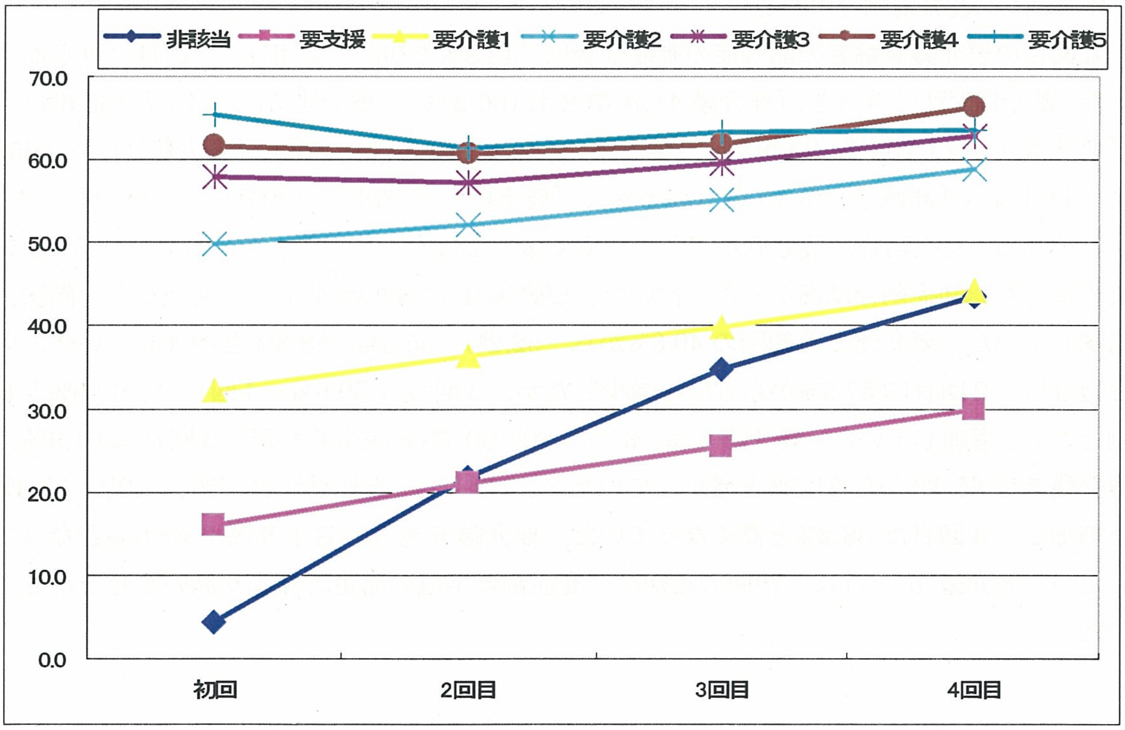

図 12　要介護度別認知症割合の経年的変化（全体：N＝16,156）

第5章 要介護認定基準時間及び中間評価項目得点の経年的変化の比較

1.要介護認定基準時間の経年的変化

要介護認定基準時間について、初回の認定結果（二次判定）を基に、初回から４回目までの平均要介護認定基準時間の推移をみた。この結果、非該当から要介護 2 までの要介護高齢者は、初回から４回目にかけて、漸次、要介護認定基準時間が増加する傾向が示されたが、要介護 3 から 5 までの要介護高齢者は、初回の要介護認定基準時間が最も長く、2 回目、３回目、４回目の時間よりも長くなっていた。

また、要介護 3 は、２回目の要介護認定基準時間が最も短く、３回目、４回目と長くなっていたが、要介護度 4 と 5 では、３回目の要介護認定基準時間が最も短くなっており、かった。

初回に非該当だった高齢者は、28.7 分であったが、２回目は 41.2 分、３回目は 44.7 分という要介護 1 に相当する時間になっていた。４回目は、要介護 2 相当の 53.0 分となっていた。

初回に要支援だった高齢者は、27.8 分であったが、２回目 32.0 分、３回目 34.7 分、4 回目 38.5 分となり、要介護 1 に相当する時間になっていた。

初回に、要介護 1 だったものは、36.2 分、２回目 40.3 分、３回目 43.9 分、４回目 48.6 分となり、要介護 1 に相当する時間になっていた。

初回に要介護 2 であったものは、54.0 分だったが、２回目 54.1 分、３回目は 57.7 分、62.8 分とすべて４回目まで要介護 2 であった。

初回に要介護 3 であったものは、初回は、75.5 分で要介護 3 であったが、２回目は 65.3 分、３回目も 67.7 分で要介護 2 相当になり、４回目は 72.0 分であったので、要介護 3 となっていたが、初回から２回目、３回目は、要介護度は低くなっていた。

初回に要介護 4 であったものは、初回は、98.7 分で要介護 4 であったが、２回目は 79.0 分と短くなり、３回目も 78.0 分とさらに短くなり、要介護 3 相当となる。４回目は 80.8 分で３回目よりも長くなるが、要介護度としては、3 レベルとなっていた。

初回に要介護 5 のものは、123.3 分と初回はかなり長い時間が示されていたが、2 回目は 83.6 分と要介護 3 であり、3 回目は 79.9 分と同様に要介護 3 相当ではあるが、さらに時間は短くなっていた。４回目には、81.9 分と少し長くなるが、要介護 3 相当であった。

以上のように初回の認定結果が、要介護 3、4、5 という多くの介護の手間が必要と認定された高齢者らは、２回目でかなり時間が短くなり、その多くは、要介護度が低くなる傾向があることがわかった。

表 31　要介護認定区分と要介護認定基準時間

平成 15 年 3 月まで	
要支援	要介護認定基準時間が 30 分未満であって・要介護認定基準等時間が 25 分以上または間接生活介助、機能訓練関連行為の2分野の要介護認定等基準時間の合計が 10 分以上
要介護 1	要介護認定基準時間が 30 分以上 50 分未満
要介護 2	要介護認定基準時間が 50 分以上 70 分未満
要介護 3	要介護認定基準時間が 70 分以上 90 分未満
要介護 4	要介護認定基準時間が 90 分以上 110 分未満
要介護 5	要介護認定基準時間が 110 分以上

平成 15 年 4 月から	
要支援	要介護認定基準時間が 25 分以上 32 分未満
要介護 1	要介護認定基準時間が 32 分以上 50 分未満
要介護 2	要介護認定基準時間が 50 分以上 70 分未満
要介護 3	要介護認定基準時間が 70 分以上 90 分未満
要介護 4	要介護認定基準時間が 90 分以上 110 分未満
要介護 5	要介護認定基準時間が 110 分以上

表 32　要介護認定基準時間の経年的変化

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当	平均値	28.7	41.2	44.7	53.0
(N=23)	標準偏差	11.3	20.3	23.1	29.6
	最小値	24	25	24	24
	最大値	79	90	94	124
要支援	平均値	27.8	32.0	34.7	38.5
(N=3,273)	標準偏差	4.5	10.7	14.1	19.0
	最小値	22	23	23	23
	最大値	60	132	152	156
要介護 1	平均値	36.2	40.3	43.9	48.6
(N=5,766)	標準偏差	7.8	15.5	19.5	23.8
	最小値	23	22	23	23
	最大値	84	142	146	162
要介護 2	平均値	54.0	54.1	57.7	62.8
(N=3,656)	標準偏差	12.2	20.2	23.1	25.9
	最小値	23	24	24	23
	最大値	126	152	167	148
要介護 3	平均値	75.5	65.3	67.7	72.0
(N=2,043)	標準偏差	15.0	22.4	24.8	27.3
	最小値	24	24	23	24
	最大値	153	147	148	163
要介護 4	平均値	98.7	79.0	78.0	80.7
(N=1,060)	標準偏差	13.9	23.5	25.1	26.9
	最小値	25	25	24	25
	最大値	156	165	159	159
要介護 5	平均値	123.3	83.6	79.9	81.9
(N=335)	標準偏差	13.9	23.1	26.4	27.1
	最小値	83	28	29	27
	最大値	165	166	148	144
合計	平均値	49.4	48.3	51.2	55.5
(N=16,156)	標準偏差	25.0	22.8	24.8	27.6
	最小値	22	22	23	23
	最大値	165	166	167	163

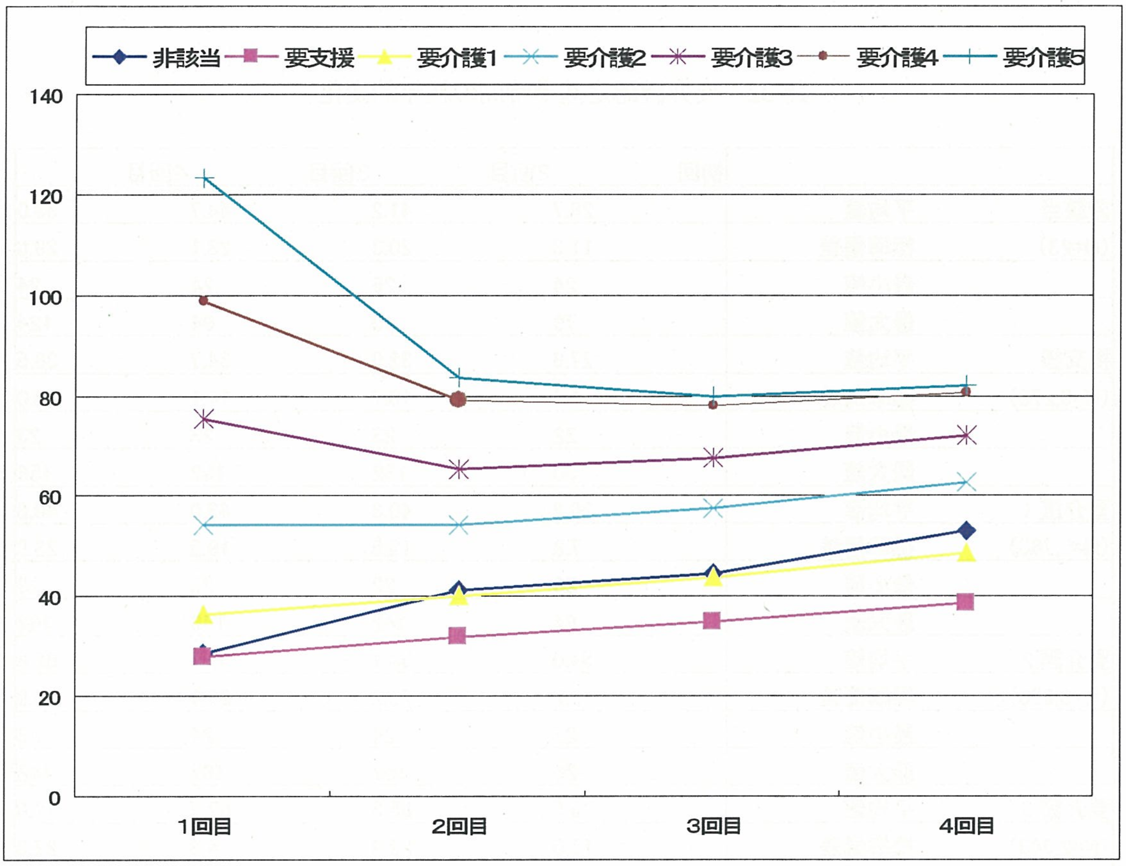

図 13　要介護認定基準時間（平均値）の経年的変化

2.要介護高齢者の状態を示す中間評価項目得点（第1～7群）の経年的変化

(1) 中間評価項目得点の推移（第1群：麻痺・拘縮）

初回のデータに基づいて算出された中間評価項目得点が2回目～4回目までに、どのように変化するかを分析した。

「第1群：麻痺・拘縮」の中間評価項目得点の全体の平均値は、初回84.1点、2回目83.0点、3回目は82.2点、4回目は80.6点と初回から4回目にかけて減少していることから状態としては悪化しているものと推察された。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初93.5点と高い得点であるが、2回目は90.1点と低下するが、2回目までは高い得点であった。3回目83.9点、さらに4回目で82.6点と示され、漸次、低下する傾向が示されていた。

初回が要支援で得点が91.1点であった高齢者らは、2回目に89.2点と低下し、3回目も88.2点、4回目は86.9点と漸次、低下していた。

初回が要介護1で86.2点の高齢者らも2回目に85.0点と低下し、3回目も84.0点と低下し、4回目は82.7点と要支援と同様に漸次、低下していた。

初回が要介護2で82.8点を示した高齢者らは、2回目には、81.6点と低下、3回目には81.3点と低下し、4回目は79.4点と、認定回数が増えるにしたがって低下していた。

初回が要介護3で79.1点の高齢者らは、2回目は78.7点と低下し、3回目77.7点、4回目も75.5点と低下していた。

初回が要介護4で70.9点の高齢者らは、2回目も70.9点と変化がなく、3回目には69.6点とわずかに低下し、4回目も67.4点と低下する傾向が示された。

初回が要介護5の高齢者は、62.4点と低い得点であった。しかし、2回目には69.4点と上昇し、さらに3回目は69.4点と変化なしで4回目に、若干低下し、67.0点となっていた。

以上のように、要介護4、5を除くと認定回数が増えるにしたがって、中間評価項目得点も減少していた。

さらに、認定時点における要介護度間の中間評価項目得点を比較した結果、初回においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2の間には有意差はなかった。2回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、要介護4と要介護5の間には有意差はなかった。3回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、要介護4と要介護5の間には有意差はなかった。4回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、要介護4と要介護5には有意差はなかった。

このように「第1群：麻痺・拘縮の得点」は、初回から4回目までのすべての時点の認定時において非該当と要支援の間、非該当と要介護1の間、非該当と要介護2、非該当と要介護3の間には、有意な差はなかった。

表 33　中間評価項目得点（第 1 群：麻痺・拘縮）の経年的推移

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当	平均値	93.5	90.1	83.9	82.6
(N=23)	標準偏差	9.2	12.0	13.5	16.7
	最小値	69.8	61.5	52	47.6
	最大値	100	100	100	100
要支援	平均値	91.1	89.2	88.2	86.9
(N=3,273)	標準偏差	11.6	12.7	13.6	14.5
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 1	平均値	86.2	85.0	84.0	82.7
(N=5,766)	標準偏差	15.8	16.6	17.3	18.3
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 2	平均値	82.8	81.6	81.3	79.4
(N=3,656)	標準偏差	19.8	20.3	20.2	21.6
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 3	平均値	79.1	78.7	77.7	75.5
(N=2,043)	標準偏差	21.5	21.9	22.9	23.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 4	平均値	70.9	70.9	69.6	67.4
(N=1,060)	標準偏差	26.0	25.8	27.0	28.4
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 5	平均値	62.4	69.4	69.4	67.0
(N=335)	標準偏差	28.6	26.1	26.5	26.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
合計	平均値	84.1	83.0	82.2	80.6
(N=16,156)	標準偏差	19.0	19.2	19.7	20.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

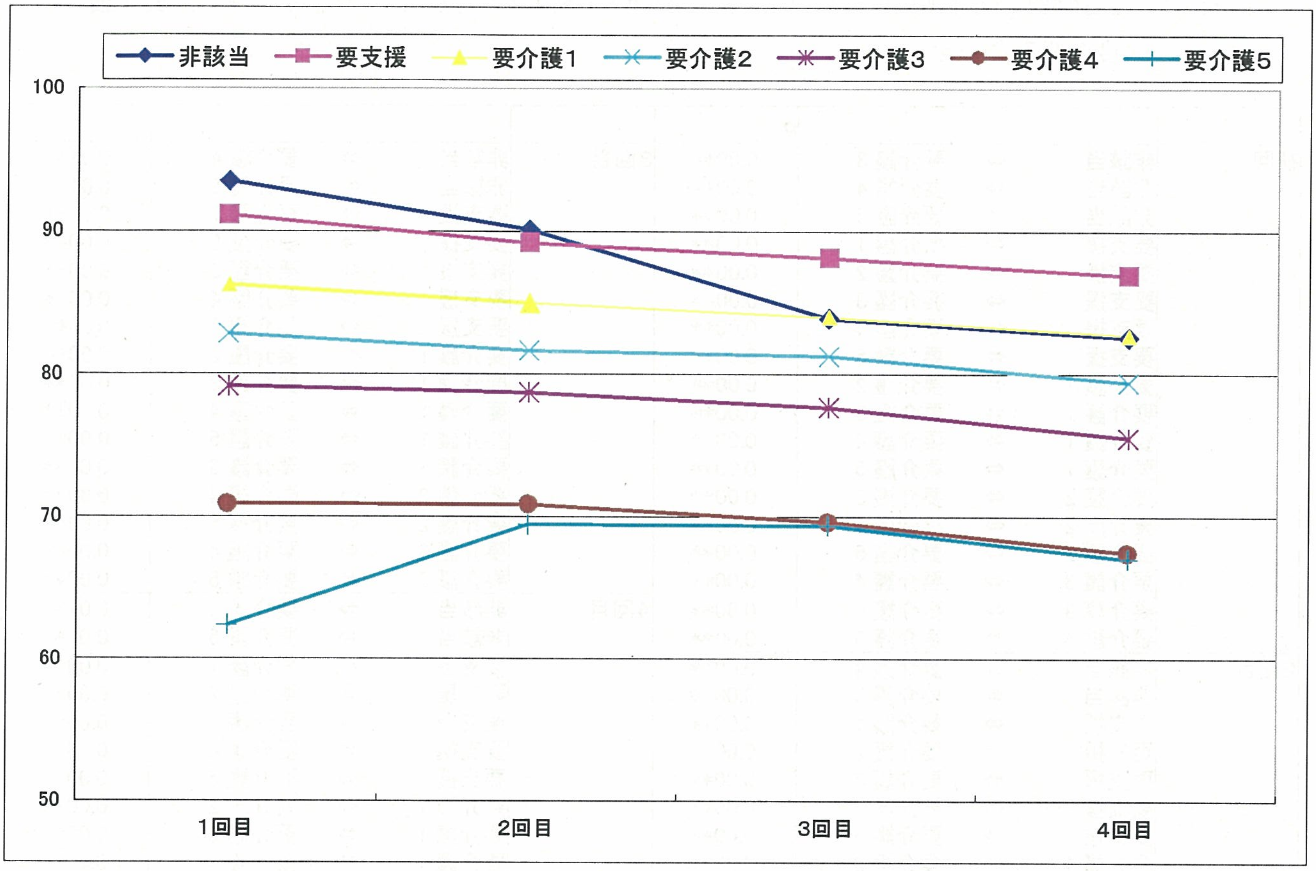

図 14　中間評価項目得点の経年的推移（第 1 群：麻痺・拘縮）

表 34　認定時点別中間評価項目得点（第 1 群：麻痺・拘縮）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	590228.9	6	98371.5	302.122	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	5258140.1	16149	325.6		
	合計	5848369.0	16155			
2回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	410632.7	6	68438.8	199.606	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	5536991.7	16149	342.9		
	合計	5947624.4	16155			
3回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	403045.9	6	67174.3	183.964	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	5896806.9	16149	365.1		
	合計	6299852.8	16155			
4回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	459725.5	6	76620.9	187.864	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	6586407.5	16149	407.9		
	合計	7046133.1	16155			

表 35　認定時別中間評価項目得点（第 1 群：麻痺・拘縮）の多重比較：有意差が生じた要介護度の組み合わせ

				P
初回	非該当	⇔	要介護 3	0.00**
	非該当	⇔	要介護 4	0.00**
	非該当	⇔	要介護 5	0.00**
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 4	⇔	要介護 5	0.00**
2回目	非該当	⇔	要介護 4	0.00**
	非該当	⇔	要介護 5	0.00**
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
3回目	非該当	⇔	要介護 4	0.01*
	非該当	⇔	要介護 5	0.01*
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
4回目	非該当	⇔	要介護 4	0.01*
	非該当	⇔	要介護 5	0.01*
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**

表 36　認定ごとの中間評価項目得点（第 1 群：麻痺・拘縮）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

				P
初回	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.10
2回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.60
	非該当	⇔	要介護 3	0.07
	要介護 4	⇔	要介護 5	1.00
3回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	1.00
	非該当	⇔	要介護 3	1.00
	要介護 4	⇔	要介護 5	1.00
4回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	1.00
	非該当	⇔	要介護 3	1.00
	要介護 4	⇔	要介護 5	1.00

(2) 中間評価項目得点の推移（第２群：移動等）

「第２群：移動等」の中間評価項目得点の全体の平均値は、初回は 80.5 点、２回目は 81.1 点、３回目は 78.8 点、４回目は 74.7 点と他の群に比較すると高い得点であり、初回から２回目には増加していた。しかし、２回目から４回目にかけて減少する傾向が見られた。

また、初回の要介護度別には、非該当だった高齢者の場合には、初回 97.2 点、２回目 86.5 点、３回目 85.2 点、４回目 81.1 点と減少し、移動の能力が低下していると推察された。

要支援だった高齢者の場合には、初回 93.1 点、２回目 90.6 点、３回目 89.0 点、４回目 85.8 点と減少し、非該当と同様に、認定を重ねるにしたがって移動の能力が低下しているものと推察された。

要介護１だった高齢者も初回 88.1 点、２回目 86.1 点、３回目 83.6 点、４回目 80.0 点と減少し、非該当と同様に、認定を重ねるにしたがって移動の能力が低下しているものと推察された。要介護２だった高齢者も初回 80.2 点、２回目 79.8 点、３回目 76.6 点、４回目 71.6 点と減少し、非該当と同様に、認定を重ねるにしたがって移動の能力が低下しているものと推察された。

初回が要介護３だった高齢者は、初回 68.5 点であるが、２回目は 71.7 点と高くなっていた。しかし、３回目は、69.0 点と減少し、４回目も 63.9 点とさらに減少しており、２回目に若干、向上するが、再び、低下してしまうというパターンが示された。

初回が要介護４だった高齢者は、初回 42.3 点とかなり低いが、２回目は 56.7 点と高くなる。しかし、３回目は 55.7 点と減少し、４回目も 51.8 点と減少するが、初回よりは高い得点を示していた。

初回が要介護５だった高齢者は、初回が 21.5 点とかなり低いが、２回目には、49.3 点と２倍以上に増加し、３回目も 50.9 点と上昇していた。４回目は、低下し 48.3 点を示していたが、初回よりも、かなり高い得点であった。

このように、要支援から要介護 2 までは、すべて初回から４回目まで漸次、得点は減少していたが、要介護 3～5 は、すべて初回が最も低い得点であった。

さらに、認定時点別要介護度別の中間評価項目得点について一元配置分散分析を行ったところ、１回から４回の全ての認定の中間評価項目得点間には、統計的に有意な差が見られた。また、認定時点における要介護度間の中間評価項目得点を比較した結果、初回においては、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間では有意差はなかった。２回目においては、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間、非該当と要介護 2 の間には有意差はなかった。３回目においても２回目と同様に、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間、非該当と要介護 2 の間には有意差はなかった。４回目においては、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間、非該当と要介護 2 の間、要介護 4 と要介護 5 の間には有意な差はなかった。

このように「第 2 群：移動等の得点」においては、初回から４回目までのすべての時点の認定時において非該当と要支援、非該当と要介護 1 の間には、有意な差はなかった。

表 37　中間評価項目得点の経年的推移（第２群：移動等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当	平均値	97.2	86.5	85.2	81.1
(N=23)	標準偏差	5.3	13.1	12.2	19.2
	最小値	83.4	55.2	56.6	26.3
	最大値	100	100	100	100
要支援	平均値	93.1	90.6	89.0	85.8
(N=3,273)	標準偏差	7.7	11.0	12.8	16.8
	最小値	53.7	7.8	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 1	平均値	88.1	86.1	83.6	80.0
(N=5,766)	標準偏差	10.3	13.6	16.4	20.3
	最小値	35.7	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 2	平均値	80.2	79.8	76.6	71.6
(N=3,656)	標準偏差	14.8	17.4	20.4	24.5
	最小値	7.8	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 3	平均値	68.5	71.7	69.0	63.9
(N=2,043)	標準偏差	21.1	21.7	23.8	27.0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 4	平均値	42.3	56.7	55.7	51.8
(N=1,060)	標準偏差	25.9	27.0	28.2	30.1
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 5	平均値	21.5	49.3	50.9	48.3
(N=335)	標準偏差	20.6	28.9	29.3	30.8
	最小値	0	0	0	0
	最大値	97.2	100	100	100
合計	平均値	80.5	81.1	78.8	74.7
(N=16,156)	標準偏差	21.2	19.6	21.4	24.8
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

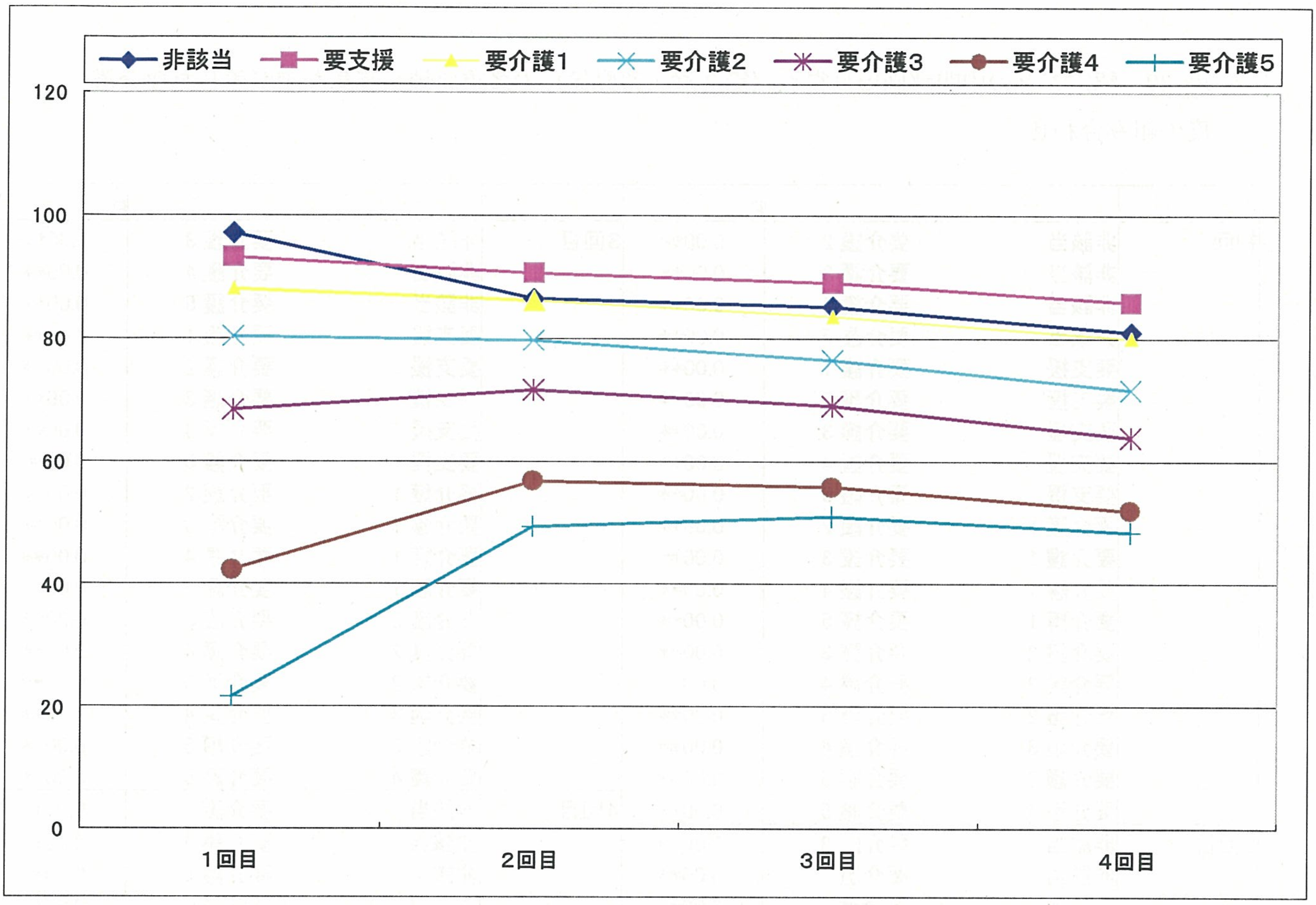

図 15　中間評価項目得点の経年的推移（第 2 群：移動等）

表 38　認定ごとの中間評価項目得点（第 2 群：移動等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	3868330.0	6	644721.7	3090.47	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	3368946.0	16149	208.6		
	合計	7237276.0	16155			
2回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	1597428.2	6	266238.0	938.502	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	4581212.0	16149	283.7		
	合計	6178640.2	16155			
3回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	1518443.0	6	253073.8	693.454	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	5893522.4	16149	364.9		
	合計	7411965.4	16155			
4回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	1635524.7	6	272587.4	531.956	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	8275150.4	16149	512.4		
	合計	9910675.1	16155			

表 39　認定ごとの中間評価項目得点（第 2 群：移動等）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

			P
初回	非該当	要介護 2	0.00**
	非該当	要介護 3	0.00**
	非該当	要介護 4	0.00**
	非該当	要介護 5	0.00**
	要支援	要介護 1	0.00**
	要支援	要介護 2	0.00**
	要支援	要介護 3	0.00**
	要支援	要介護 4	0.00**
	要支援	要介護 5	0.00**
	要介護 1	要介護 2	0.00**
	要介護 1	要介護 3	0.00**
	要介護 1	要介護 4	0.00**
	要介護 1	要介護 5	0.00**
	要介護 2	要介護 3	0.00**
	要介護 2	要介護 4	0.00**
	要介護 2	要介護 5	0.00**
	要介護 3	要介護 4	0.00**
	要介護 3	要介護 5	0.00**
	要介護 4	要介護 5	0.00**
2回目	非該当	要介護 3	0.00**
	非該当	要介護 4	0.00**
	非該当	要介護 5	0.00**
	要支援	要介護 1	0.00**
	要支援	要介護 2	0.00**
	要支援	要介護 3	0.00**
	要支援	要介護 4	0.00**
	要支援	要介護 5	0.00**
	要介護 1	要介護 2	0.00**
	要介護 1	要介護 3	0.00**
	要介護 1	要介護 4	0.00**
	要介護 1	要介護 5	0.00**
	要介護 2	要介護 3	0.00**
	要介護 2	要介護 4	0.00**
	要介護 2	要介護 5	0.00**
	要介護 3	要介護 4	0.00**
	要介護 3	要介護 5	0.00**
	要介護 4	要介護 5	0.00**
3回目	非該当	要介護 3	0.00**
	非該当	要介護 4	0.00**
	非該当	要介護 5	0.00**
	要支援	要介護 1	0.00**
	要支援	要介護 2	0.00**
	要支援	要介護 3	0.00**
	要支援	要介護 4	0.00**
	要支援	要介護 5	0.00**
	要介護 1	要介護 2	0.00**
	要介護 1	要介護 3	0.00**
	要介護 1	要介護 4	0.00**
	要介護 1	要介護 5	0.00**
	要介護 2	要介護 3	0.00**
	要介護 2	要介護 4	0.00**
	要介護 2	要介護 5	0.00**
	要介護 3	要介護 4	0.00**
	要介護 3	要介護 5	0.00**
	要介護 4	要介護 5	0.00**
4回目	非該当	要介護 3	0.01*
	非該当	要介護 4	0.00**
	非該当	要介護 5	0.00**
	要支援	要介護 1	0.00**
	要支援	要介護 2	0.00**
	要支援	要介護 3	0.00**
	要支援	要介護 4	0.00**
	要支援	要介護 5	0.00**
	要介護 1	要介護 2	0.00**
	要介護 1	要介護 3	0.00**
	要介護 1	要介護 4	0.00**
	要介護 1	要介護 5	0.00**
	要介護 2	要介護 3	0.00**
	要介護 2	要介護 4	0.00**
	要介護 2	要介護 5	0.00**
	要介護 3	要介護 4	0.00**
	要介護 3	要介護 5	0.00**

表 40　認定時中間評価項目得点（第２群：移動等）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

				P
初回	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	0.05
2回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	1.00

				P
3回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.64
4回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.93
	要介護 4	⇔	要介護 5	0.30

(3) 中間評価項目得点の推移（第３群：複雑な動作等）

「第 3 群：複雑な動作等」の中間評価項目得点の平均値は、全体としては、初回は 57.3 点、２回目は 57.4 点、３回目は 54.4 点、４回目は 50.4 点とであった。初回と２回目はあまり変化がみられず、２回目から３回目、３回目から４回目にかけて漸次、減少する傾向が示された。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初 88.6 点と高い得点であるが、２回目は 63.4 点とかなり低くなり、３回目は 65.7 点と上昇し、さらに４回目で 56.6 点とかなり低くなっていた。

初回が要支援で得点が 80.8 点であった高齢者らは、２回目に 75.0 点とかなり低下し、3 回目も 71.2 点とさらに低下し、４回目は 67.0 点と漸次、低下していた。

初回が要介護 1 で 67.2 点の高齢者らも２回目に 64.1 点とかなり低下し、３回目も 60.6 点とさらに低下し、４回目は 56.2 点と要支援と同様に漸次、低下していた。

初回が要介護 2 で 50.3 点を示した高齢者らは、２回目には、51.4 点と上昇するが、３回目には 48.5 点と初回よりも、さらに低下し、４回目は 44.1 点と低下していた。

初回が要介護 3 で 34.6 点の高齢者らは、２回目は 41.7 点と上昇するが、３回目には 39.4 点と低下し、４回目にも 35.4 点と低下していた。

初回が要介護 4 で 14.5 点の高齢者らは、２回目は 27.8 点とほぼ 2 倍へと上昇するが、３回目には 27.6 点と低下し、４回目にも 25.9 点と低下していたが、初回の得点が最も低い得点であった。

初回が要介護 5 の高齢者は、5.2 点とかなり低い得点であった。しかし、２回目には 23.5 点と、４倍もの得点へ上昇し、さらに３回目も 26.4 点と上昇していた。４回目は、若干低下し、25.5 点となっていたが、初回の得点が最も低い得点であったことは、要介護 3、4、5 に共通していた。

このように要介護 2 から 5 は、すべて初回から２回目にかけて増加し、その後、減少するという傾向が示された。

また認定回時別に要介護度別の中間評価項目得点の比較を一元配置分散分析で分析した結果、初回から４回目の全ての認定で中間評価項目得点に有意な差が見られた。

しかし、要介護別に、得点を比較すると、初回においては、非該当と要支援、２回目においても非該当と要支援、非該当と要介護 1、非該当と要介護 2 の間には有意な差はなかった。３回目においても非該当と要支援、非該当と要介護 1、要介護 4 と要介護 5 の間には有意な差はなく、４回目においても非該当と要支援、非該当と要介護 1、非該当と要介護 2、要介護 4 と要介護 5 の得点の間には、有意差はなかった。

表 41　中間評価項目得点の経年的推移（第３群：複雑な動作等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当	平均値	88.6	63.4	65.7	56.6
(N=23)	標準偏差	16.4	22.7	23.7	28.7
	最小値	29.2	14.3	15.7	1.1
	最大値	100	100	100	90.1
要支援	平均値	80.8	75.0	71.2	67.0
(N=3,273)	標準偏差	11.9	16.3	18.4	21.1
	最小値	15.7	1.1	1.1	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 1	平均値	67.2	64.1	60.6	56.2
(N=5,766)	標準偏差	16.9	19.2	21.0	23.1
	最小値	1.1	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 2	平均値	50.3	51.4	48.5	44.1
(N=3,656)	標準偏差	19.9	21.0	22.7	24.1
	最小値	1.1	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 3	平均値	34.6	41.7	39.4	35.4
(N=2,043)	標準偏差	21.8	22.4	23.2	23.9
	最小値	0	1.1	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 4	平均値	14.5	27.8	27.6	25.9
(N=1,060)	標準偏差	17.5	22.0	22.8	23.0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	90.1
要介護 5	平均値	5.2	23.5	26.4	25.5
(N=335)	標準偏差	8.8	21.8	22.2	23.4
	最小値	0	1.1	0	0
	最大値	51.6	100	100	90.1
合計	平均値	57.3	57.4	54.4	50.4
(N=16,156)	標準偏差	26.5	24.3	25.0	26.3
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

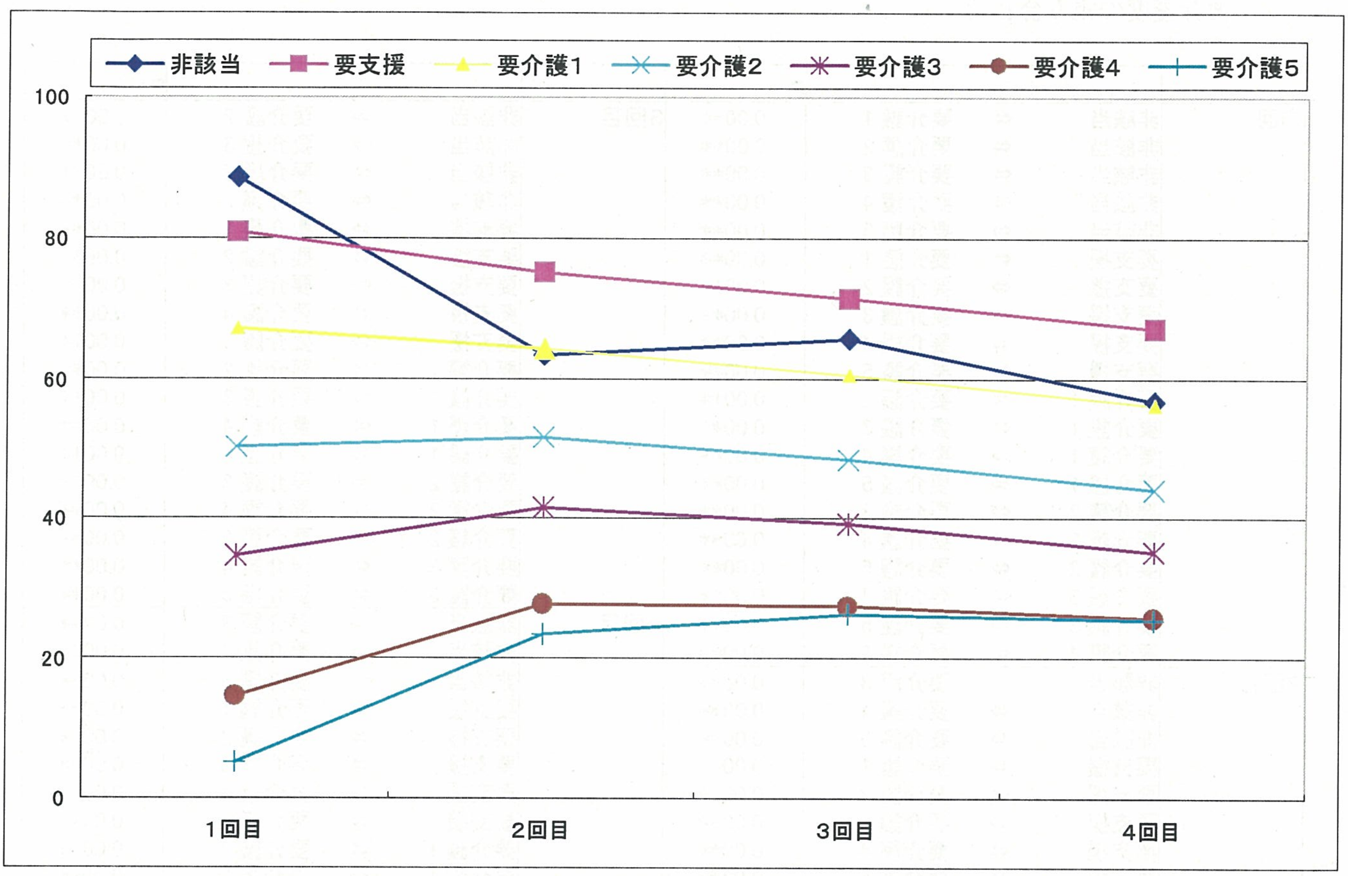

図 16　中間評価項目得点の経年的推移（第 3 群：複雑な動作等）

表 42　認定ごとの中間評価項目得点（第 3 群：複雑な動作等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	6472906.9	6	1078817.8	3570.425	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	4879482.8	16149	302.2		
	合計	11352389.7	16155			
2回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	3221287.7	6	536881.3	1374.186	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	6309257.0	16149	390.7		
	合計	9530544.6	16155			
3回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	2759835.1	6	459972.5	1007.239	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	7374711.4	16149	456.7		
	合計	10134546.4	16155			
4回目	ｸﾞﾙｰﾌﾟ間	2538959.4	6	423159.9	795.076	0.00**
	ｸﾞﾙｰﾌﾟ内	8594913.3	16149	532.2		
	合計	11133872.6	16155			